

令和4年度第3回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：令和5年3月10日（金）午後2時～午後3時10分

場 所：豊田市中央図書館6階多目的ホール

出席者：委 員 9名

事 務 局 5名（教育部、図書館管理課）

関 係 課 5名（学校教育課、保育課、子ども家庭課、
次世代育成課、市民活躍支援課）

指定管理者 3名（TRC・ホームックス共同企業体）

（1）図書館からの報告

事 務 局：豊田市中央図書館の改修について説明

委 員：児童コーナーを拡充するということだが、対象年齢はどれくらいのイメージか。ティーンズコーナーはどうなるのか、「児童」は18歳までが対象のため、児童という言葉がふさわしいのか。

事 務 局：現在の児童コーナーは、下は0歳から中学生頃までを対象。改修後も0歳から中学生頃までが対象の予定。

3階のティーンズコーナーを児童コーナーと統合しては、という意見もあったが、逆に6階は子ども用のフロアであることや、利用者に館内の回遊をしてほしい、という思いもあり、ティーンズコーナーの移設は見送った。

委 員：利用者の誘導方法など、分かれてしまっている部分を補えるような工夫をしてほしい。

6階を児童コーナーにすることで、ベビーカー等の利用者は、直接6階へ入館できるようになるのか。

事 務 局：6階へ直接入れる設備はあるが、入り口に関しては現在と同じく基本は閉じておく予定。

移転前の図書館で、保護者が目を離した際に子供が館外に飛び出し、事故に遭った経緯があり、外に出ていきにくい場所に児童コーナーを作っている。現在4階に児童コーナーを置いているのも、そのため。6階の奥で出入りしにくい、子どもが出て行きにくい場所に児童コーナーを移設することにした。

委 員：入口が今と変わらないということは、車いすの方が利用しにくくなるようなことにならないか。

事 務 局：現在も館内のエレベーターを使って4階に行くため、車いすの方にとって利便性も不便さも変わらないと考えている。

委員：新型コロナウイルス感染症が落ち着き、利用者が増えてくると思うが今回の改修でソーシャルディスタンスなどを考慮した設備や施設の使い方など、配慮した部分はあるか。

事務局：ソーシャルディスタンスを取れるような設備については、現在の設計では考えていない。もしも今後距離をとって使うのが完全に当たり前になれば、運用やソフト面で対応していくことになる。

委員：6階に移ったことによりスペースは確かに取れたと思う。しかし、低学年以下が多く利用する割に、トイレへの距離が遠くなっているのではないか。設備上仕方ないのは分かるが、経験上、大変心配である。何か工夫はできないのか。

同じ階に出入り口があると子どもが外に出て行ってしまうという考え方には、とても疑問を感じる。6階から子ども達がどのように下へ降りるか想定すると、エスカレーターやエレベーターであるが、どのような事故を想定しているのか。

6階エレベーターからそのまま児童コーナーに行ける設備があるのに3階や5階から別のエレベーターに乗り換えて上がらなくてはならないのは大変不便。ベビーカーパーキングまであるのにその手間はいるのか。

事務局：トイレの位置は、下水の関係でずらすことは難しい。

子どもを図書館の外に出さないということを重視している。現在の児童コーナーがある4階はそもそも外に繋がる出入り口はない。

6階から直接児童コーナーへ出入りしたいという意見が今後多いようであれば、検討をしたい。現在は、現状の4階に児童コーナーを置いてあった考え方を踏襲したいと考えている。児童コーナーの領域とわかるような設備を作っていく、ここから先は出ちゃ駄目だよといったことが子どもでも分かりやすくなるようにしていきたい。

委員：児童といっても0歳から中学生ということが念頭にあり、その分安全や安心をより細かく考慮しないといけない。その部分をどうフォローしていくのか今後の課題かと思う。

委員：改修案を見て、児童コーナーが移動して随分広くなり、使いやすくなったと感じた。

20年後までこのままということだが、10年前と今とを比べると、若い世代の情報の取り入れ方が大きく変わった。図書館らしくない、もっと面白い図書館ができないかと感じた。

この建物の中では難しいとは思いますがもう一つ別のものとして、全国の様々な図書館を見て、面白いところも取り入れ、将来的に考えていただけたら。

事務局：こういった図書館が豊田市にとって良いのかというのは様々な意見があると思う。

豊田市には大規模図書館が現在、ここにしかないため、現在の図書館らしい図書館を維持した形の改修を考えている。

また、全面改修をするのは、予算的にも難しいため、どこを改修するのが効果的かを考えた結果、児童コーナーに的を絞って改修するのがよいのではないか、と言う結論になった。

今回の改修では、空調機器や照明は新しくなるが床や壁はあまり変わらないため、他の階は、見た目にはあまり分からない改修になると思われる。ただし、天井からの漏水は減ると思う。

委員：改修に関しては、事務局が、事前にこども図書室に出向いて、こども図書室ボランティアの様々な意見に対し、ここまでならできる、これは変えられないなど詳しく説明して下さった。ボランティアの希望を入れていただいたところも多々ある。事務局説明後、ボランティアで再検討したが、もっと説明して欲しい等の意見は上がっていない。ボランティアはこの改修に納得したと思う。

構造上の問題や予算もあるというところで、本当に色々工夫してくださったと思う。

面白みのある図書館とのことだが、前回の協議会で出た意見のとおり、外国語圏の人とも何か連携ができたらと感じる。別の地域活動で、その地域に入りたいが入れない子達を見かける。少しでも何か入りやすい場所、気軽に行ける場所になればいいと思う。どこかそういうスペースがあればよいと思うので、検討いただきたい。

事務局：ハード面では、外国人に向けたコーナーを新設することはなかなか難しいと思うが、ソフト面で指定管理者と協力して工夫することはできると思う。前回の図書館協議会では、外国の方を交えて館内の案内を作ってもらったらどうかといった意見も出ていた。書架の並びが変わるため、書架の案内を外国の方々も交えて新しく作るなど、ソフト面で様々な方に親しめる図書館作りができればと考えている。

委員：0歳から中学生と言っても年齢で分かれることになるので、外国籍の人や障がいがある子どもも使いやすい場所になるように、書架の配置などいろいろ工夫をしていただけるといいかなと思う。様々な力を持っている生徒や市民もいるので、一緒に連携していくのが、一番実りのある取り組みになるのでは。

委員：良い悪いは判断できないが、より良くなっていくのであれば良いと思う。限られた予算の中での改修で、指定管理者の意見も当然入ってい

と思うが、どういう経緯でこうなったかという説明を運営側の事業者よりいただきたい。

指定管理者：図書館管理課より指定管理者にも適宜相談があり、実際にカウンターに入っている者や現場に携わっている者の意見を伝えている。例えば5階のAVコーナーは、家庭で映画など視聴する時代になってきているため今より席数は少なくてもよい、ということ。実際にカウンター業務に携わっていく中でのスタッフの動線、利用者のニーズ、その他指定管理者の意見なども反映されている。

構造上の制限のある中で進めているため、指定管理者として運営面でカバーをしていかなくてはいけない部分も多分にあると考えている。

事務局：指定管理者の意見を多分に反映できた部分もあるが、意見を反映させることができなかつた部分も多々ある。

基本的に利用者の利便性の向上が重要だと思っているが、スタッフから見て押さえなくては困るという部分はなるべく考慮したいと考えている。

委員：反映されているなら良い。20年間の運用を見据えるとのことだが、時代の流れの中で、当然また不具合が出てくる部分があるかと思う。お金をたくさんかけずとも、臨機応変にやれることがあるのであれば少しずつ変えていっていただければ良いと思う。

委員：児童コーナーを充実していただけるということでありありがとうございます。カウンターから見通しの確保ができるように、本棚を放射状にするのは、安全面から考えたら良いと感じている。赤ちゃん連れの親子で来館し、膝に入れて読むことができる居心地のいい図書館、その子たちがまた自分で借りたいなと思えるような図書館になっていくと良いと感じている。

事務局：靴を脱いで上げられるような床材を使用することまでは決まっているが、具体的な色や質感などは決まっていない。なるべく居心地のよい空間になるよう今後も進めていきたいと考えている。

委員：英語絵本の読み聞かせのボランティアで、ボランティア室を使うことがある。現状、6階ボランティア室で打ち合わせをしてから、4階に持っていき絵本の読み聞かせをしている。

ボランティア室は結構場所を取っているイメージがあり、自分が使う時は一部屋しか使っておらず、残りの2部屋がもったいないなと思う。稼働率を見て、もし余裕があれば、一部屋でも児童コーナーに使えるとよいのでは。また、ボランティア室ではなく、自由に子どもが出入りできる形の部屋を三つ、形を固定せず何か工夫できるとスペース的に有効活用できるのではないかと考えている。

で、考えていただく余地があるならば考えていただけると場所の有効活用ができるのではないかと思う。

また、書棚については、書架は低いものが放射線状に行くのか。

事務局：書棚は場所にもよるが、基本的に現在あるものを再利用することを考えている。そのため、児童コーナーらしく低い棚ばかりになるかというところでもなく、150cmの棚も180cmの棚もある。ただし、高い棚を手前に持ってくることはせず、奥に行くほど高くするか、基本的に同じ高さの棚を近くに配置する予定である。手前の棚のせいで奥が見えないということはないと考えている。

委員：私も仕事柄、各地の図書館に行くことがあり、アンフォーレ、岡崎や、金沢の石川県立図書館も行った。空間を特に重要視して作られている。予算的に書架の高さが低いものを用意できないのであれば仕方ないと思うが、せっかく児童コーナーにするのであれば、もう少し低めの空間を上手に使って居心地のよい空間ができると良いと思う。

委員：高学年の子達が新しい児童コーナーへ来て本を選び、ちょっとここで読みたいな、調べたいなと思ったとき、その場所がない。高学年は高い書棚の利用を想像すると、会議室やボランティア室の使い方を工夫するだけで、高学年も来やすいと思う。

4階の閲覧室は中高生以上の方が多く、静かに勉強しているため、高学年の子には心理的にハードルが高い。では、高学年の子の居場所はどこかと考えると、ボランティア室等に活用のヒントがあると思う。ここに突破口があるのでは。

学校では、調べ学習が今とても重要視されている。例えばタブレットを持ち込んでみんなで一緒に何か調べる時に、4階は違うなと思うと、子どもたちが使える場所がない。その辺も含めて、ボランティア室の活用の仕方を考えてほしい。

事務局：高学年の子の居場所については、なんとかしたいと考えているが、なかなかうまくその場所を作れなかった。

ボランティア室は意外と使われている。会議室については、常時開放できるか分からないが、夏季長期休暇期間中などに会議室を臨時閲覧席として、解放できないか、指定管理者と相談しながら考えていきたい。

委員：年齢で区切ると、区切ったことによる影響を想定しながら部屋の稼働を考えていくことになる。ソフト面とハード面を一緒に考え、準備をしていく必要がある。また、音や色などに反応してしまう子への対応の面では、個室を利用できるようにすると、子供達自身が利用しやすくなると思う。

- 委員：様々な限界がある中で頑張っていたいただいているなど思っている。
非常時の避難について、放射線状に並んでいる書架が避難するのにどう
いう影響を与えるのか、どこから避難するのか、小さい子供がいた
らどの程度人手が必要なのか、そういったシミュレーションはどう
なっているか。
- 事務局：重要な課題についてご指摘いただきありがとうございます。避難経路
に関してはまだ具体的な検証をしていない状況にある。設計部門から
は、避難経路は法律上問題ない形で本棚を配置していると聞いている。
今後の避難誘導方法については、運営側で考えていくことになる。避
難経路に関しては、階段と、地震時でも動くエレベーターの方法があ
り、足の悪い方はエレベーターの経路かと思う。今後検証やシミュレ
ーションをして臨んでいく。
- 委員：（児童コーナーは）中学生までの想定ということであったが、中学生
の自分がこのコーナーに行くかと思うと、読みたい本がそこにあるな
ど目的があれば行くが、そうでなければ行かないと思う。年齢設定自
体を少し下げて、小学生までに特化してもよいのでは。
4階の休憩室は、少し会話ができるスペースという予定か。
- 事務局：その予定である。
現在の休憩室と同じで、基本的に少し会話もでき、ご飯も食べられる
場所にする予定。
4階カウンターからは、カウンターの端からガラス越しに利用状況が
目視できるが、カウンターから見えない部分や周囲の迷惑になる利用
者がいる場合は、指定管理者に時々確認の依頼をしていくことになる。
- 委員：避難経路の件では、スタッフが何人ぐらい常駐し、何かあったときに
スタッフがどう動くのかと考えた図案か、それとも今後の検討か。
- 事務局：それぞれ今後考えていくことになる。
- 委員：蔵書できる数自体は変動するのか。
- 事務局：児童コーナー以外は基本的には殆ど変わらない予定。
- 委員：次の改修は何年後で、この改修で何年もたせる予定か。
- 事務局：20年間を見据えてと言われているので20年以上を見込んでいる
が、全市的に公共施設は基本的に57年使いましょうという計画があ
るため、それを考えるとあと32年。
今後20年30年見据えるという話になってくると、この機会にどれ
だけ除籍をするかも非常に大きな課題になる。書架に余裕がないと、
新しい図書の購入や配架にも影響が出てくる。除籍は今までなかなか
進んでいなかったが、指定管理者の努力もあり、現在は除籍が進んで
いる。現在、中央図書館の蔵書冊数が毎年減っているが、それは、不

要な本を無くす努力をしているということ。

委員：休憩室や、図書館らしい図書館等の話の中で、管理者側から見えるのも大事だと思うが、利用者同士が抑止力になるかと思う。石川県立図書館では、コーナーがまとまっておらず、正面からは見えないが書棚の反対に椅子があり、持ち込み本や、勉強ができるようになっている。利用者がお互いを抑止できるコンセプト。ここでは勉強するではなく、書棚があり勉強したくなる、調べたくなる環境作りの方が伸びると思う。20年もこの先改修がないのであれば、もう少し考慮いただけたら。

事務局：石川県図書館は私も見学に個人的に行っており、素晴らしいとしか言いようがない。現在の豊田市中心図書館でも、書架の近くに閲覧席をいくつか設けている。今後、場所の配置を変えてみるなど、より使いやすくする工夫ができないか考えていきたい。

委員：事務局でまた進めていただければと思う。

—以上—